

編集後記

COVID-19の影響で、実験や実習、地域活動、課外活動など多くの面で大きな制約が生じました。一方で、リモートワークの技術が向上したり、これまでは時間とコストの制約からなかなか会うことができなかった人どうしがオンラインで気軽に連絡を取り合えるようになったり、会議がオンラインになったことで、移動に割かれていた時間を別のことに振り向けられるようになったりと、リモートのよいところも強く実感された一年でした。アフターコロナにおいても、直接の対話でしか得られないことを大切にしながら、リモートの利点を最大限に活用していきたいものです。

環境科学部年報委員会

委員長	皆川 明子
委員	田辺 祥子 (環境生態学科)
	上河原 献二 (環境政策・計画学科)
	高屋 麻里子 (環境建築デザイン学科)
	住田 卓也 (生物資源管理学科)

環境科学部 環境科学研究科

年報第 25 号 環境科学とリモート社会

発行日 2021年3月31日
発行所 滋賀県立大学 環境科学部
〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500
TEL 0749-28-8301
発行人 村上 修一
印刷所 株式会社 ヒコハン

表紙写真

左上：子どもたちにも定着したソーシャルディスタンス (環境建築デザイン学科、白井氏提供)
左下：対面とオンラインのハイブリッド形式で実施した、設計演習Ⅱの講評会 (環境建築デザイン学科、山崎氏提供)
右上：気候変動枠組条約採択直後の会議場 (1992年5月9日上河原氏撮影) (環境政策・計画学科、上河原氏提供)
右下：ドローンを使った湖北野田沼における水草分布調査 (環境生態学科、後藤氏提供)

裏表紙写真

左上：ドローンによって空撮された、本学圃場での緑肥栽培試験の状況 (生物資源管理学科、岩間氏提供)
右上：気候変動観測衛星「しきさい」(GCOM-C/SGLI)のデータに基づいて画像化した2020年5月11日の琵琶湖におけるクロロフィルa濃度(植物プランクトン現存量の指標)分布 (環境生態学科、伴氏提供)
下：箱罟の周辺に設置されたセンサーカメラに捉えられたイノシシ。オンラインで狩猟体験を提供する「クラウドハンター」活動の様子。(郡上里山株式会社「猪鹿庁」、興膳健太氏提供)